

2022年3月期 第1四半期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）
2. 業績のポイント
3. 主要製品の状況
4. 業績と予想
5. 開発品一覧

2021年8月3日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2022年3月期 第1四半期 決算概観（連結）

（単位：百万円）

	19年3月期 第1四半期	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	22年3月期 第1四半期	前年比 (%)	22年3月期 第2四半期予想	前年比 (%)	22年3月期 通期予想	前年比 (%)
売上高	25,131	25,749	24,689	24,695	n/a	47,300	n/a	102,600	n/a
営業利益	1,320	1,575	2,014	-756	—	-800	—	3,300	-43.0%
経常利益	1,596	1,827	2,265	-491	—	-600	—	3,800	-41.1%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,077	1,280	1,609	-462	—	-300	—	2,700	-56.0%

22年3月期 第1四半期 連結業績（実績）

【売上高】薬価改定及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、当社が重点領域とする呼吸器・耳鼻科等の市場は低調に推移しました。主力製品「デザレックス」「ラスビック」は伸長しましたが、長期収載品及びロイヤリティ収入・役務収益等の減少により新医薬品等（国内）は減少しました。他方、後発医薬品は増加し、全体の売上高は246億95百万円となりました。

【利益】薬価改定等により原価率が上昇し、売上総利益は減少しました。また慢性咳嗽治療薬の導入に関わる契約一時金を計上したため、販売費及び一般管理費が増加し、7億56百万円の営業損失を計上しました。

22年3月期 連結業績（予想）

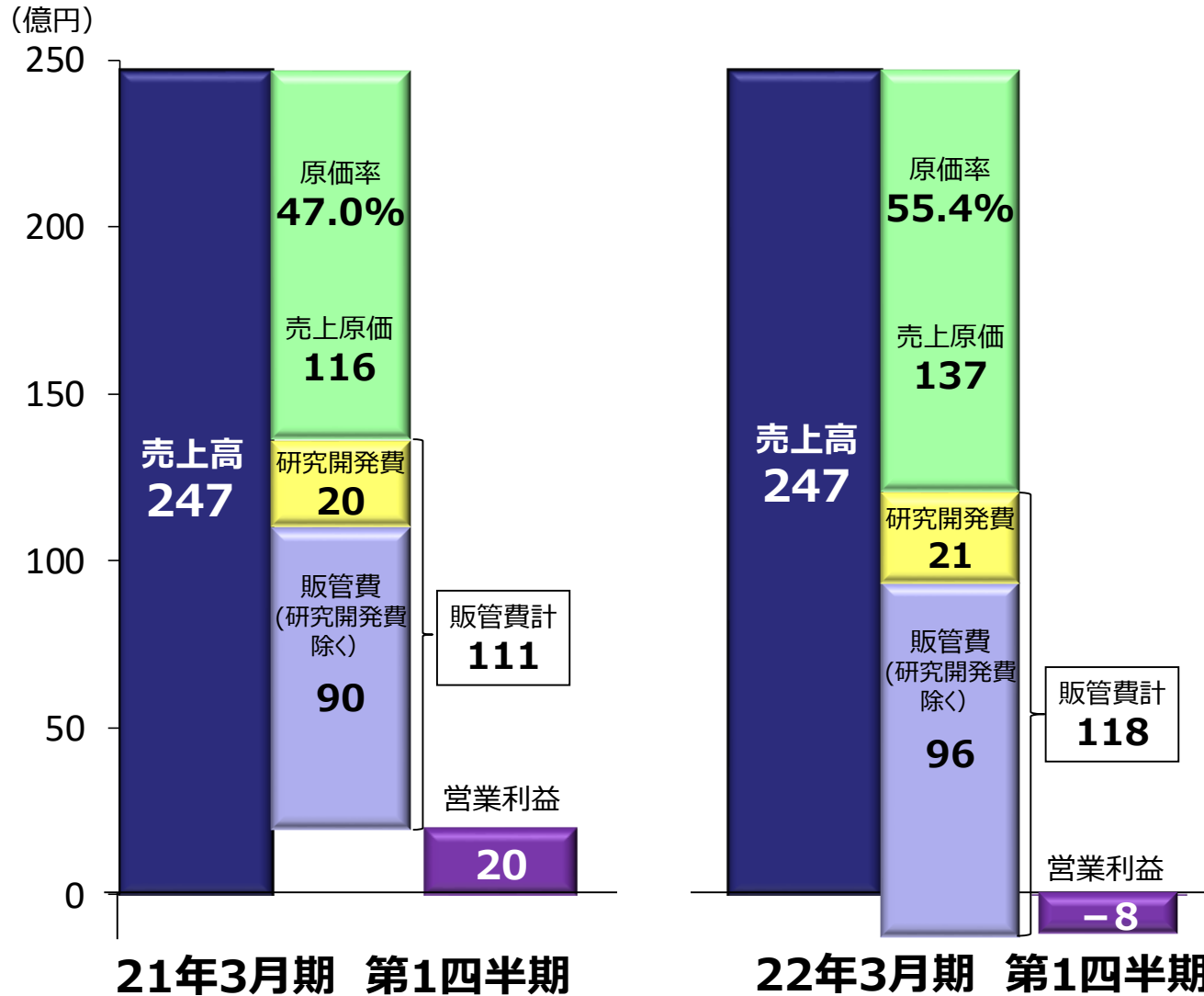
現時点におきまして、2021年5月11日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想を変更しておりません。

（第2四半期売上予想に対する進捗度：52.2%）

また、2021年5月11日に公表しました配当予想(年間52円/株)の変更はございません。

※当第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、前第1四半期連結累計期間の収益認識基準が異なることから、当第1四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年比（%）は記載しておりません。なお、「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響額は売上高が256百万円減少し、販売費及び一般管理費が256百万円減少しましたが、営業損失、経常損失、親会社に帰属する四半期純損失への影響はありません。

2022年3月期 第1四半期 業績のポイント (参考)



【ポイント】

■ 売上高は横ばい

- ▶ 新医薬品等（国内）の減少
 - ・主力製品は伸長
- ▶ 後発医薬品の増加

■ 売上総利益は減少

- 当第1四半期：110億円（前期131億円）
- ▶ 売上原価率が上昇
 - ・薬価改定の影響（杏林製薬6%台）
 - ・後発医薬品の売上増加
 - ・棚卸資産の除却損等の増加

■ 販管費は増加

- ・研究開発費はほぼ横ばい
- ・ゲーファピキサント導入に関わる契約一時金を計上
- ・人件費等の減少

2022年3月期 第1四半期 業績の状況

(単位：億円)

(対前年)

	21年3月期 第1四半期	22年3月期 第1四半期	前年比 (額)
売上高	247	247	n/a
新医薬品等(国内)	170	168	n/a
新医薬品(海外)	2	2	n/a
後発医薬品	75	77	n/a

営業利益	20	-8	-28
経常利益	23	-5	-28
親会社株主に帰属する 四半期純利益	16	-5	-21

■ 売上高	247億円		(n/a)
● 新医薬品等 (国内)	168億円		(n/a)
	20.6 (1Q)	21.6 (1Q)	
・フルティフォーム	31	⇒ 32	(+1)
・デザレックス	9	⇒ 13	(+4)
・ベオーバ	19	⇒ 21	(+2)
・ラスビック	1	⇒ 4	(+3)
・ペンタサ	32	⇒ 36	(+4)
・ウリトス	12	⇒ 4	(-8)
・ナゾネックス	3	⇒ 4	(+1)
・キプレス	18	⇒ 18	(0)
・ムコダイン	7	⇒ 8	(+1)
● 新医薬品 (海外)	2億円		(n/a)
● 後発医薬品	77億円		(n/a)
	モンテルカストAG、モメタゾンAGの売上の増加、6月追補収載品の売上が寄与		

■ 営業利益	-8億円		(-28)
● 原価率 当第1四半期：55.4% (前期：47.0%)	【低下要因】新薬群の売上拡大 【上昇要因】薬価改定、後発医薬品の売上増加 棚卸資産の除却損の増加		
● 研究開発費	* 研究開発費 当第1四半期：21億円 (前期：20億円)		
● 販管費(研究開発費除く)	当第1四半期：96億円 (前期：90億円) 人件費の減少、特許等使用料の増加 (ゲーファピキサント導入に関わる契約一時金)		

■ 親会社株主に帰属する 四半期純利益	-5億円		(-21)
------------------------	------	--	-------

※当第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、前第1四半期連結累計期間の収益認識基準が異なることから、当第1四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年比(%)は記載していません。

なお、営業損失、経常損失、親会社に帰属する四半期純損失への影響はありません。

2022年3月期 第1四半期 主要製品の状況

(単位：億円)

製品名		第2四半期		通期		第1四半期 (4月～6月)				
		20年9月 実績	21年9月 予想	21年3月 実績	22年3月 予想	20年6月 実績	21年6月 実績	前年比 (%)	中間 進捗率	通期 進捗率
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	64	66	133	139	31	32	+1.8%	48.5%	22.9%
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	18	28	57	72	9	13	+44.5%	47.0%	18.1%
	ベオーバ (自社販売分) (選択的β3アドレナリン受容体作動性過活動膀胱治療剤)	38	41	73	86	19	21	+12.1%	50.6%	24.4%
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	2	11	9	28	1	4	+814.9%	36.1%	14.6%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	64	60	128	117	32	36	+11.5%	59.6%	30.5%
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	16	5	23	10	12	4	-70.2%	72.7%	35.8%
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	6	5	28	18	3	4	+10.6%	67.7%	20.5%
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	35	30	83	69	18	18	+1.6%	58.4%	26.0%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	14	12	33	29	7	8	+13.2%	66.6%	28.1%
	ミルトン (哺乳瓶・乳首消毒剤)	11	11	21	22	5	5	-1.3%	45.9%	22.3%
	ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	10	10	20	21	6	5	-12.4%	48.3%	22.8%
後発医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	45	40	108	92	23	26	+8.9%	63.1%	27.6%
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	9	10	38	35	4	5	+13.2%	48.5%	13.9%
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	3	4	7	7	2	2	+10.3%	49.0%	24.9%

2022年3月期 第1四半期 業績と予想（連結）



(単位：百万円)

	第2四半期		通期		第1四半期（4月～6月）					
	20年9月 実績	21年9月 予想	21年3月 実績	22年3月 予想	20年6月 実績	21年6月 実績	前年比 (額)	前年比 (%)	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	47,735	47,300	102,904	102,600	24,689	24,695	n/a	n/a	52.2%	24.1%
新医薬品等(国内)	32,857	31,900	69,735	68,600	17,010	16,820	n/a	n/a	52.7%	24.5%
新医薬品(海外)	527	500	996	800	220	200	n/a	n/a	40.0%	25.0%
後発医薬品	14,351	14,800	32,172	33,100	7,458	7,674	n/a	n/a	51.9%	23.2%
営業利益	1,502	-800	5,786	3,300	2,014	-756	-2,771	-	-	-
経常利益	1,813	-600	6,447	3,800	2,265	-491	-2,756	-	-	-
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	2,118	-300	6,130	2,700	1,609	-462	-2,071	-	-	-

当第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、2022年3月期連結業績の第1四半期実績、第2四半期予想、通期予想は、当該「収益認識に関する会計基準」等を適用した数値となっております。

開発品一覧① (2021年8月3日現在)

PhⅢ ~ 発売

開発段階		製品名/ 開発コード	適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
発売 (21年4月)	—	ジムソ膀胱内注入液50%/ KRP-116D	間質性膀胱炎	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	
申請中 (21年2月) MSD	—	ゲーファピキサントクエン酸塩 (一般名)	慢性咳嗽 (予定)	メルク社	選択的P2X3受容体拮抗薬であり、難治性または原因不明の慢性咳嗽への効果が期待される	21年4月 MSDより日本国内での 独占販売権を取得

POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph I (20年7月)	Ph I b/ II a (aTyr社:米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr社 (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体(NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	
	Ph I (21年4月:英国)	KRP-A218	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

開発品一覧② (2021年8月3日現在)

導入品の状況

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph II (19年12月) あすか製薬	—	AKP-009	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月)

導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph I	FPR2作動薬 プログラム	BMS社 (プリストル・マイヤーズスクイブ)	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約 (15年12月)
Ph I	KRP-203	Priothera社 (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡 (20年9月)
非臨床	感音難聴開発 化合物	Otonomy社 (オトミー)	感音難聴	自社	感音難聴を対象とした新規開発候補化合物	難聴等の耳科を対象とする全世界における開発、製造、販売に関する独占的権利を供与 (20年8月) 杏林製薬は日本における販売権を留保 Otonomy社 開発コード：OTO-6XX